

0812

第一四三第

<p>主務局長 明治三十四年五月廿六日</p> <p>局長 六月六日</p> <p>主務課長 六月七日</p>	<p>裁決</p> <p>電報</p>	<p>受審 領事 滿乾芽七八八號</p>
<p>主務局長</p>	<p>參事官</p>	<p>次官</p>
<p>主務課長</p>	<p>高級副官</p>	<p>主務副官</p>
<p>主務課員</p> <p>案審 永井</p>	<p>主計</p>	<p>名 大野菊太郎</p>

閱

五月六日

通牒

官房ヨリ大野勝馬ハ

客月^三十一日附ヲ以テ空中飛行船製作
 ノ義出願相成^テ可特ノ至^ニ矣得共右其
 助^ニ於テ審査^セシ^テラレ^テ矣^ハ慶別紙調査書
 ノ通^ニ其要領^ニ於テハ可ナリトモ密トモ^モ實用
^ニ遠^キモ^ノト認^メラレ^テ願^意採^用不^相成^テ矣^ハ
 別紙相添願書及^テ付^テ矣^也

第一九八九號

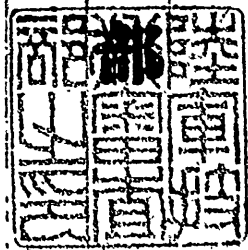
六月七日



明治三十七年之月二日

陸軍技術審査

陸軍省



陸軍技術
審査部
石 第六一九 號

海軍省一七七〇号ニ付屬之ニ
送付ノ事ニ付テハ
送付ノ事ニ付テハ
送付ノ事ニ付テハ

陸軍省

1

0815



明治三十七年六月一日

陸軍技術審査部長有坂成章

陸軍大臣寺内正毅殿

陸軍技術審査部調第一九號

六月一日 砲六二日

空中飛行船審査委員等より付覆申

去月廿八日滿數第一七七。早ヲ以テ沖下向相成

大野勝馬外一名ヲ出願ニ係ル空中飛行船

天也係トシテ一名ヲ出願ニ係ル本飛行船ノ要領ハ西曆一千

七百年代ノ末ヲ佛獨其他諸國ニ於テ研究試驗

セル誘導気球ト同一ノ理想ニ基クモノニシテ絶對的

陸軍技術審査部

不能ノモノニアラス然レトモ其目的ヲ達成セシハ所要
 ノ速カヲ以テ少クモ二三時間空中ニ行動し得ルヲ要ス之
 カ為ニハ重量ノ大ナル原動機其他必須ノ物件ヲ
 積載シテ飛行スルニ足ルヘキ尠大ナル瓦斯球ヲ製作
 スルカ若クハ輕量ナル原動機ニシテ之ヲ運轉ニ多量ノ
 消費材料ヲ要セスシテ強大ナル機力ヲ生スル物ヲ案
 出スルノ二途アルノミ而カモ此事タル頗ル困難ノ要求ニ
 属シ百有餘年前ヨリ歐洲各國ニ於テ苦心研究シテ
 アルニ均ラス今尚完全ナル誘導式氣球ノ成功ヲ告ケ
 サル所以ニ變ニ如上ノ要件ヲ充足スルコト能ハサル職
 由スルモノトス

柳モ空中飛行船ハ一年中少クモ二外ノ一以上ノ日子ハ
風速ニ耐ヘ得ルニアラサレハ实用ニ適セサルモノト謂フモ

妨ケナシ故ニ先ツ一々年間各風速ニ應スル日数統計
計表ヲ掲ケテ飛行船ノ有スヘキ速度ノ標準ヲ定ム
ベシ

一々年間各風速ニ應スル日数統計表

一々 日 数	一 秒 時
七六、〇二二、六、五九三、〇八三、五〇八、八二、〇九、二〇八、〇、〇九	一未以下 三未 五、以下六未 〇、〇以下八未 〇、〇以下一〇未 〇、〇以下二未 〇、〇以下三未 〇、〇以下四未 〇、〇以下五未 〇、〇以上
累計 七六、〇二二、〇七三、九六、三三三、一一三五、〇、一三三七、〇二 三六一、一一三六四、〇七 三六九、〇〇	

前表ハ明治三十三年七月ヨリ至三十四年六月ニ至ルノ間本土四
國九州各地ノ測候所ニ於テ観測シタルモノニ基キ毎日午

前六時より午後六時迄ノ風力ヲ計上シタルモノニシテ地面ニ
 近キ位置ノ風速ナリトス然ルニ空中若干ノ高サニ昇レ
 ハ其風速ハ地面ニ比シテ遙カニ大ナルモノニシテ其比准ハ
 一室ノ変ノモノニアラスト多モ各國ノ氣球研究者ノ実験
 ニ依レバ地上二百乃至三百米ニ於ケル風速ハ地面ノ風速
 ニ比シ三倍以上ナルコトヲ証セリ故ニ前表ニ據リ之ヲ改算
 スレバ左表ノ如シ
 一 風速時 四米以下 一五米以下 二五米以下 三五米以下 四五米以下 五五米以下 六五米以上
 日 数 七六、〇二 二二六、〇五 九三、〇八 三三、〇八 一八、〇二 七、〇一 四、〇九 一、〇八 〇、〇五
 累 計 七六、〇二 二二六、〇七 二九六、〇三 三三三、〇一 三五〇、〇一 三五七、〇二 三六二、〇一 三六四、〇七 三六五、〇〇
 之ニ依テ之ヲ觀レハ一々年間少クモ二分一以上昇騰シ得ヘキ

飛行船ノ速度ハ約一〇米五〇ナリ而シテ飛行中俄然風速ノ増加スルモ一時之抵抗シ得ル為ノ一二米〇〇ヲ以テ標準トスルヲ安全ナリトス

又瓦斯球ノ容積ハ積載諸物ノ重量ト密接ノ關係ヲ有シ積載物中急動機ノ重量ハ瓦斯球ノ空氣抵抗面即チ最大横断面ト密接ノ關係ヲ有スルヲ以テ二者中ノ一ヲ仮定シ他ノ一ヲ決定スルヲ要ス然ルニ瓦斯球ノ容積ハ長径若クハ一般ノ形状ヲ変更スレハ多少ノ増減ヲ許スノ餘地アルヲ以テ其最大断面ヲ仮定スル便ナリトス前項ノ理由ニヨリ少額者ノ提出せん圖面ノ寸法即チ最大中径二十四呎即チ七米三一五ヲ標準トシ速度十二米〇〇

付

者者覆申候也

トスレバ約三十三馬力ヲ必要トス此ノ如キ実効馬力ヲ発
 生スヘキ原動機中最も輕量ナルモノト雖モ其重量約
 二百斤ニシテ之ニ所要ノ燃料冷却水其他積載
 物ヲ加フレハ莫大ナル重量トナリ到底本飛航行船ノ瓦
 斯球(說明書ノ容積ト同一ノ寸法ト一致セス若シ因上ノ寸
 法ヲ正シキモノトスレハ其容積ハ約五千五百^{立方呎}トナルベシ
 ナリテ又ヘ得ハキモノニアラス

以上記スル所ニ依リ本飛航行船ヲ判定スレハ其要領ハ曰ナ
 リト雖モ實用ニ遠キモノト認メサルヲ得ス

受領番
領番
清乾第七八号
大官浦野菊太郎
件名
空中飛行船製作一件

大臣

高

次官

参事官

高級副官

主務副官

決裁

主務局長

主務局長

主務課長

主務課員

主務局
受領番
明治廿五年五月廿七日
大官
受領番
明治廿五年五月廿七日
房官
受領番
明治廿五年五月廿七日

長 局 帶 聯

長 線 帶 聯

者 記 筆 案 聯

永井

技術審査部へ御達案

空中飛行艇製作、儀別紙満乾第七

八八号大野勝馬外一名ヨリ出願、趣審査

スヘシ

航空技術審査部第一七七〇號

五月廿八日

